

1964年 東京オリンピックへの道のり

～ 招致活動の記録をたどる ～

1964年、東京において第18回オリンピック大会が開催されました。
今回の展示では、オリンピック招致の始まりから開催決定にいたるまでの道のりを当館所蔵資料でご紹介します。

東京都公文書館では、展示資料以外にも、オリンピック関係の公文書や刊行物を多数所蔵しています。皆様のご利用をお待ちしております。

- ◆ 展示期間：平成20年5月20日（火曜日）～6月20日（金曜日）

期間中、土曜日・日曜日は休館になります。

- ◆ 場所：東京都公文書館一階ロビー展示コーナー

- ◆ 展示内容・資料

> 招致活動の始まり 1952 - 54年

昭和27年（1952）4月28日、前年9月サンフランシスコ講和会議において調印された対日平和条約が発効しました。これにより、それまで連合軍の占領下にあった日本は、ようやく独立国として再出発を果たします。

東京都知事安井誠一郎が、第17回オリンピック大会の招致を表明したのは、同年5月9日でした。同月24日には大会仮招請状をIOCに送付しています。戦後における公式の招致活動は、このとき始まります。

同年7月にはヘルシンキでオリンピックが開催され、日本は戦後初めて代表選手を参加させました。オリンピックへの関心は大いに高まり、招致に向けて春副知事が正式招請状を携えてヘルシンキに赴きました。

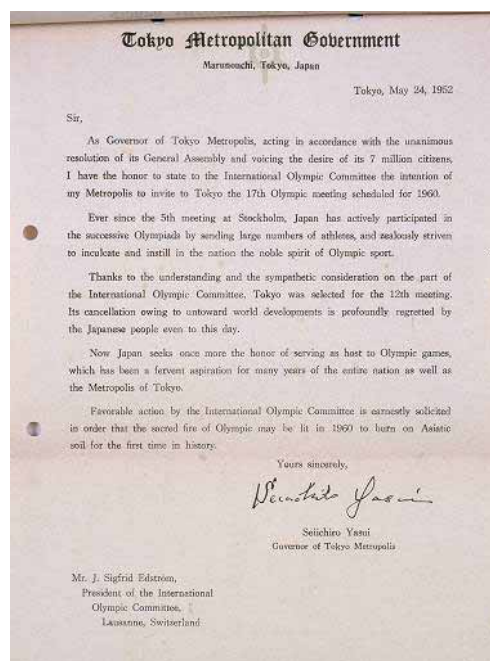
同地において、レスリング・フリースタイル世界選手権大会の日本開催が決まり、昭和29年（1954）5月まだ一部工事の完成していなかった千駄ヶ谷の東京体育館を会場として熱戦が繰り広げられました。

東京都は、本格的な招致活動を展開するため、同年10月にオリンピック大会招致事務局を外務室に設置しました。

< 資料 >

- ・ 戦後初のオリンピック招請公文書【右写真】

昭和27年(1952) M04-5-1



- ・ 1954年レスリングフリースタイル世界選手権大会報告書 昭和29年(1954) 780.69/れ1
- ・ レスリング選手権大会記念切手 昭和29年(1954) 個人蔵
- ・ レスリング選手権大会報道写真 昭和29年(1954) 報道課写真 1412・1236・1250
- ・ オリンピック招致事務局設置公文書 昭和29年(1954) L04-1-1

> 第18回大会の招致へ 1955 - 58年

昭和30年(1955)2月、都はオリンピック開催に関する質問に対する回答書を提出するとともに、第54次IOC総会の招致を推進しました。

残念なことに同年6月パリで開かれた第50次IOC総会において、第17回大会開催地はローマに決定します。

東京は、次期第18回大会の招致を目ざし、その布石としてIOC総会(昭和33年5月14 - 17日)と、第3回アジア競技大会(同年5月24日 - 6月1日)の東京開催を実現します。

<資料>

- ・ アルバム「TOKYO」 昭和30年(1955)
- ・ 第54次IOC総会記念アルバム[パネル]【右写真】 昭和33年(1958) 共同通信作成
- ・ オリンピック大会招致計画要綱策定文書 昭和32年(1957) L04-1-4
- ・ オリンピック開催希望都市に対する質問事項回答書提出決定文書・回答書案 昭和30年(1955) L04-1-2



> アジア大会の成功 1958年

アジア競技大会は、戦後初めてロンドンで開催されたオリンピックに参加したインド・フィリピン・朝鮮・中華民国・セイロン・ビルマの6カ国が、4年に一度アジアの総合競技大会開催を合意したことに始まります。

第1回大会は昭和26年(1951)インドのニューデリーで、第2回大会は昭和29年(1954)フィリピンのマニラで開催されました。

第3回の東京大会は、その直前に開かれた第54次IOC総会に参加する各国委員に対し、東京が国際レベルの競技会を担う実力を持っていることをアピールすることを狙っていました。

そのため、オリンピックを意識した聖火リレーの導入や閉会式の巧みな演出等、いわばオリンピックの予行演習といってもよい内容が盛り込まれました。

円滑な運営もあいまって、世界的な賞賛を集め、第18回大会の開催候補地として東京は高い評価を得ることができたのです。

<資料>

- ・ 聖火リレーコース図 昭和 33 年(1958) M02-3-133
- ・ 「オリンピック招致に繋がる第三回アジア競技大会」『都政通信』記事
昭和 33 年(1958) M01-7-104
- ・ 羽田空港に設置された看板図案 昭和 32 年(1957)
M01-5-76
- ・ ID カードと入場券 昭和 33 年(1958) M02-3-133
- ・ オフィシャル・プログラムとパンフレット【右写真】
昭和 33 年(1958) M01-5-76 M02-3-145
- ・ 電車内中吊りポスター
昭和 33 年(1958) M02-2-122



> 東京開催の決定 1959年

熱心で周到な招致運動が効を奏し、18回大会開催地を決定する昭和34年(1959)5月のIOCミュンヘン総会の前から、東京開催はほぼ確実と見られていました。

同年4月に行われた都知事選に当選した東知事は、IOC委員兼任で東京代表団として総会に出席します。

総会は25日に開会し、26日には対立候補であるオーストリア・ウィーンやアメリカのデトロイトを破り、東京はようやく第18回大会の開催地として決定しました。

投票の結果は以下のとおり、東京の圧勝でした。

東京	34票	
デトロイト	10票	
ウィーン	9票	
ブリュッセル	5票	合計58票

代表団からの国際電話による報告を受け、当時丸の内にあった都庁では祝杯をあげ、念願のオリンピック招致実現を喜びました。

<資料>

- ・ 第18回大会開催候補地に対する質問回答書・添付図面
- ・ 第18回大会招致ポスター図案とリーフレット〔パネル〕昭和33年(1958)制作
- ・ 開催決定の知らせに喜ぶ都庁 『東京広報』昭和34年(1959)6月号 318.305/こほ/広34
- ・ 招致使節団歓迎報告会開催公文書 昭和34年(1959) M04-4-9

* 展示資料は、変更することがあります。

平成20年5月
東京都公文書館
史料編さん係